

「消化器代謝内科病棟の不眠時指示薬をエスゾピクロンへ変更したことによる転倒抑制効果」について

○研究目的

特にベンゾジアゼピン（以下、BZ）系睡眠薬は持ち越し効果が一因となって転倒のリスクが増加すると言われていています。一方でその代用として使用される非 BZ 系薬剤も高齢者における転倒骨折リスクが報告されており、漫然と長期投与せず少量の使用にとどめるなど慎重な投与が推奨されています。しかしながら BZ 系と非 BZ 系の睡眠薬の服用と転倒の関連性の差異についての報告は多くありません。

今回の研究では、不眠時に使用する薬を非 BZ 系のエスゾピクロンに変更したことで、病棟での転倒・転落発生を抑制できたか否かを明らかにすることを目的として、転倒発生時の患者背景、服用薬剤を解析します

○研究対象

2012年6月1日から2018年5月31日までに、当院消化器代謝内科病棟において転倒転落された方、および、不眠時指示薬が処方された方

○研究方法

本研究は、診療録とインシデントレポートの情報を抽出して、簡単な統計解析を行います。抽出項目は、①患者基本情報（年齢、性別）②転倒転落の発生日時③使用していた睡眠薬④転倒リスクのある併用薬の使用状況など⑤転倒転落による影響⑥転倒転落危険度アセスメントスコア⑦画像検査の有無です。個人が特定出来る情報は使用しません。

○試料・情報の管理責任者

広島大学病院薬剤部 松尾 裕彰 山崎 友香

○研究期間

承認後～2021年 3月31日

○個人情報保護

調査内容は、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせ下さい。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 T e l : 082-257-5579
広島大学病院 薬剤部 教授 松尾 裕彰(研究責任者)
薬剤師 山崎 友香(研究担当者)